
詩集【紡ぐ詩片】

かむらじ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

詩集【紡ぐ詩片】

【著者名】

Z5600C

【作者名】
かむらじ

【あらすじ】

「わざかばかりの言葉遊びをたずさえてノリズミカルな心でノ感情に追い越される前に筆を取ろう」…気の向くままに書き綴った詩です。気軽に立ち寄りください。

朽ちていく物質

素直さは緻密ではないけれど
数式のような完成度を
誇っているように思えるから
ひしゃげた顔を君へと向けて
懐中時計の刻む素直さを笑つていいたい

感情など関係なく

雨は等しく降るだらう
心が満たされた日にも雲は光を奪うだらう
故郷はすべて君に支配されている
地を這う僕のこの失態を
咎めて退路を断つてはいる

感情を無視して

雨は等しく降るだらう
君に抑圧された物すら
雨量に換算されて
地へと呑きつけられる

壊されてゆく すべて
泣いてもいいかと問う弱さすら

故郷を封鎖したのは

君自身なのに

故郷のような穏やかな恋だつたと

君が思い出す度に

理由と原因が等しい割合で

渾沌の地に縛られていへ

寄せ集め：1

解釈

重苦しいドアを開いた先の
ベースモーカー店長いらつしゃい

しぶしぶ消費税は取り入れたのに
自動ドアは導入されず仕舞いの
そのことについての 店長の店長なりの
店長らしい言い訳を聞きながら
大人なんてこんなものだろうと
見切りをつけた僕だった

数えた年月

考えもしなかつた
君のたつた一言で
僕が子どもに戻されてしまうなんて

その幼さが何より悲しかった

イメージ

見開くように

目を閉じた
広がる視界
流れ落ちる涙に
世界は歪んでいく

えのぐの鳥～風の中

えのぐの鳥

青の
えのぐの
チユーブの
ふたからはみ出した
乾ききつた体をほぐすために
さいちなく羽ばたき
(青いえのぐが四方へ飛び散った)

港に立つ人の

水平線を指し示す指先は
おいしくいただいてしまったから
さえぎるものは 何もない

青一色

青をまとう鳥の
したたる青を
てのひらで すくおうとしても
液体は地へと染み込んでいくばかり

羽ばたきの音から
青い空を見た

風の中

たどたどしい僕の言葉は
今にも舞い落ちてしまいそうな枯葉のよう

幾重にも腕を伸ばし触れようとする
木々の手さえも届かず

風にあおられるばかりだけれど
それでも
世界の国から国へと
舞い降りて行きたいに
違ひない

音域／通り

音域

ボールがゴールに向かっていく
ボールが何かに向かっていく
抱きしめてもらいたい何かに
触れてみたい何かに

今すぐ
何処かへつれて行つてもらいたい
何かに

たくさんほめてくれる誰かに
たくさんのお音域を持つて
たくさんのおぼるが
ゴールに向かって
何かに向かって
飛んでいく

通り

言葉が同じ順路をたどつてばかりで
もう飽き飽き
混雜し始める通路に
身動きも満足にできない

促す係員の痛々しい かすれ声

指定された順番で
指定された場所へ

一つでもたがえてしまえば
意味は通らない

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5600u/>

詩集【紡ぐ詩片】

2011年10月7日00時46分発行